

令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
<p>○一人一人の児童生徒の尊重の項目では、保護者・児童・教職員とも「3」「4」の割合が昨年度より上がっており、保護者88%、児童が92%、教職員が100%であった。児童に寄り添った、児童の声を傾聴するように取り組んできた成果ともいえるが、不十分と捉えている児童や保護者もいる。今後さらに、教職員一人一人の人権意識を向上させ、活動を推進するとともに通信や家庭訪問、電話連絡等で児童の状況を伝えるなど連携を深めていきたい。</p> <p>○豊かな心を育む心の教育の充実については、昨年度と比較すると、保護者においては、「3」「4」の割合がわずかに減少しており、特に「4」の割合が減少している。一方、教職員においては、「3」「4」の割合がこちらもわずかに減少しているが、「4」の割合は増加している。保護者、教職員ともに「3」「4」と回答した割合が8～9割を示しているため、全体的に心の教育の充実を図ることができているといえる。</p>	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
<p>○授業作りの工夫に関して、保護者、児童・教職員の「3」「4」の割合は昨年度と比べ大きな変化はなく、児童は94%（昨年度比±0%）が「分かる」「楽しい」と感じている。また、教職員の「4」の割合が10%上がっている。校内研修で、双方向による学び合い、聞く力・表現力の向上を目指した授業づくりを目指した成果である。しかし、勉強が「わからない」「楽しくない」という子どもが存在するということを謙虚に受け止め、一人一人の子どもたちへ更に目を向けていきたい。</p> <p>○タブレット端末の活用では、児童・保護者・教職員の肯定的評価が80%を超えており、「3」「4」の割合が非常に近い数字となっている。児童の「4」の割合が昨年度と比較して下がっているが、教職員側が効果的に活用できる場面を選択して活用を促しているとも考えられる。全体的に「4」を増やしていくためには、端末を持ち帰るだけでなく、家庭学習でも活用できるよう促していく。</p>	

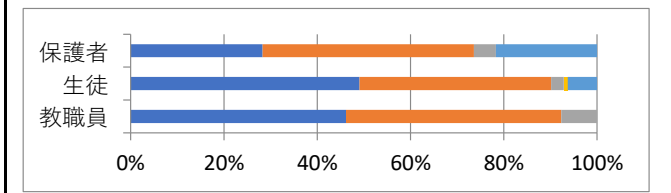
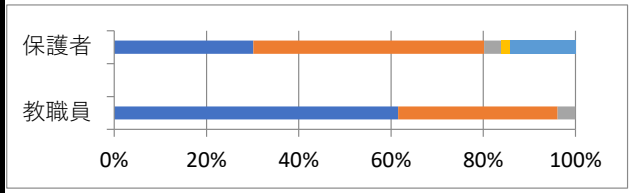
③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制

6 共生社会を担う人材の育成

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



○学校の支援体制について保護者の肯定的評価（「3」「4」の評価）が80%を超えているが、不明が14%であった。教職員の肯定的評価（「3」「4」の評価）は90%を超えていた。保護者との認識の差が少しあった。交流及び共同学習の実施は、保護者、教職員ともに肯定的評価が80%前後あり昨年度より増えていた。校内研修や会議等で子供の支援について話し合う場を設けて、教職員の意識を高めることができた。来年度は、さらに特別支援教育の研修を充実させるとともに児童、保護者に伝わる取り組みを推進させていきたい。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>○児童の「4」70%、「3」21%と評価に対して、保護者は「4」26%「3」56%となっている。児童は十分と感じている一方、保護者の思いとして、悪くはないがまだ十分ではないという思いが読み取れる。大きな注意を年1回行うより、日々の担任の働きかけを大切にしたい。</p> <p>○学校外の行動については、大型車両の交通が多い道路も多い。また道路の設計上、信号の見落としの可能性が高い交差点もある。上記と同様、日々の担任からの働きかけを大切にしたい。</p> <p>○家庭との地域では、教職員との評価と開きがある。子どもたちの情報提供をさらに行い、保護者とつながりをもって取り組みを進めたい。</p>	

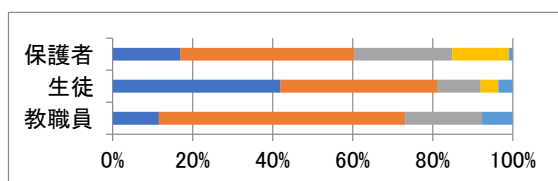
⑤学校教育目標の達成に向けた取組

9 学校教育目標の達成状況	10 あ~ちゃんズの取組の達成状況
あなたは、学校目標「気づき、考え、行動する」に向けて取り組んでいますか	あなたは、「あいさつ、合図、あとしまつ」ができていますか
<p>○学校教育目標について、児童・保護者・教職員の肯定的評価が昨年度と比べ高まっている。引き続き学校教育目標を意識して生活するよう授業・集会・行事で指導し、通信等でも啓発を行っていききたい。</p> <p>○「あいさつ、合図、あとしまつ」について、教職員・児童とも肯定的評価が84%を超えている。学校重点目標に向かって取り組みを進めている意識及び活動は高まっている。しかし、保護者目線では、昨年度より肯定的評価は増えているもののまだ課題としてとらえている。</p>	

④ 自主的意欲的な学習の推進

自主的な学習の推進

あなたは進んで学習をがんばりましたか



○意欲的な学習の推進では、児童の「3」「4」の割合が30%上昇している。授業や家庭学習での取組が、児童の学習意欲の向上につながっていると考えられる。一方で「子どもの主体的な家庭学習を推進したか」という項目に対する保護者の評価は「2」「1」の割合が39%と大きかった。どのような家庭学習を目指すのか、教職員と児童・保護者とが共通認識をもつことができるよう、学級通信等を利用して啓発を行っていく必要がある。

来年度の具体的な取組について

○教育目標方針及び「あいさつ、合図、あとしまつ」の行動化については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通して情報発信を行う。家庭とも連携し、学校、家庭両輪で取組の充実を図る。

○校内研修を充実させ、職員一人一人が授業スキルを向上させる。学力定着が難しい児童に対しては、個別指導を行ったり、家庭学習の定着のため、家庭と情報交換を行ったりしながら、学校・家庭が一体となって取り組む。

○幼保小中連携の取組として、学習、健康、生徒指導、特別支援教育の4つの取組の徹底し、幼保小中がつながりある組織づくり、共通実践を行う。健康教育では、学校保健委員会を充実させ、3校で連携をとって取り組みを進める。

○教育活動について保護者へ情報発信するとともに、教育相談や家庭訪問を行い、連携を意識して児童の成長を支援する。

学校関係者評価

○実際、子供たちの授業の様子を見せていただいたが、落ち着いた態度で学習に取り組んでいた。

○子供たちの個性を伸ばす教育実践を行ってほしい。子供たちの興味関心を認め、褒めて取り組みを進めてほしい。

○特別支援教育を含む教育相談の充実をお願いしたい。教育相談の結果、安心して学校生活を送れるようになったという声を聞いた。また、特別支援教育については、相談窓口があり、保護者に寄り添った対応ができていたので、そのことを発信すると保護者啓発につながると思う。また、専門機関の連絡先をこれまでと同じように通信などで紹介してほしい。